2006年8月の格言

平成１８年８月の格言は「コスト病」です！

コスト病と言うのは、会社の中で最も危険な病気の１つである。

必ず製品の質が落ちるし、
一番大切なものは「コスト」になってしまい
お客様サービスにかかるコストなど真っ先に削られて、
お客様を怒らせたり信頼をなくしたりするのだ！

極端な場合には･･･

コスト病が会社を潰しかねない程
恐ろしいものなのである！

いま時の中小企業では、
すでに削れる費用など殆どない！

多少のムダはクッションとして必要なものである。

大切なことは「コスト」ではなくて
「収益」なのである！

コスト病患者には･･･
このことは全くわからない！

１のコストを減らせば
それによって１０の収益が減っても
コストにしか感心を示さないのである。

一倉定先生著の社長学第３巻「販売戦略・市場戦略」より